

夏の展示

# 棟方志功、 海を渡る。

2020.7.7 tue → 9.22 tue

棟方志功記念館

開館時間 | 9:00~17:00 休館日 | 月曜日(祝日及び9月7日は開館・8月は無休開館)

観覧料 | 一般550円(450円)、学生(専門含む)300円(200円)、高校生200円(100円)、小・中学生無料 ※()は20名様以上の団体



《摩奈那登門多に建立すの欄》1959年(1960年掲)



棟方志功、  
海を渡る。

棟方作品が初めて海外へと渡ったのは1932年、第7回国画会展に出品した版画4点のうち《亀田・長谷川邸の裏庭》が国画奨学賞を受賞し、同作と《亀田・長谷川邸の内園》他1点がボストン美術館、もう1点がパリ・リュクサンブール美術館に買い上げられました。版画を制作し始めてから約5年、棟方はこの出来事が自信となり版画家として立つ決意を固めたといえます。写生に頼らずモチーフを“模様化”すること、白黒の絶対比による美しさ、従来の大きさに捉われない連作という版画表現など、独自の世界を生み出し始めた棟方は版画家として評価されていきます。1952年第2回スイス・ルガノ国際版画展で銅版画家・駒井哲郎とともに日本人初の優秀賞を受賞。1955年第3回サンパウロ・ビエンナーレ、翌年第28回ヴェネツィア・ビエンナーレでグランプリを受賞するなど、戦後の国際展で受賞を重ね世界のムナカタとして一躍有名になりました。棟方作品は海外でも様々な美術館で収蔵されています。

また、棟方は国際的に評価されたことにより1959年ロックフェラー財団とジャパン・ソサエティの招待で初渡米を果たします。「アメリカへ着くまでに見たいところがあったのです。それは何かというと、パナマ運河を見たいと思いました。」と一番先に願った棟方は、文字どおり海を渡ります。旅の感想を聞かれたときパナマ運河は最も感動したものだと言ったほどその大きさに嘆じ、船中では数十枚もスケッチを描きました。約10か月間のこの旅で棟方は夏休み中にヨーロッパへも足を伸ばし5か国を巡りました。念願だったゴッホの墓も詣でることができ、日常と違う旅先では創作意欲が刺激されたのか膨大な量のスケッチや新たなモチーフの展開、リトグラフへ挑戦するなど制作の中を広げます。棟方は生涯でアメリカへ都合4回、晩年はインドにも旅行し想を得ることで多くの作品を残しています。

夏の展示では、棟方が国際展で受賞した作品や、海外で制作・取材した作品をご紹介します。



《湧然する女者達々》湧然の柵、没然の柵 版画 1953年



《ホイトマン詩集抜粋の柵》版画 1959年



《賜額の柵》版画 1964年



《二人の女》リトグラフ 1967年



《ホルレル風景図》俊画 1967年



## 交通のご案内

新青森駅 から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南口より市営バス①のりば「東部営業所」、「県立中央病院前」行きへ乗車(約25分)、「堤橋」下車、徒歩10分</li> <li>・タクシーで約20分</li> </ul>
青森駅 から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東口より市営バス③のりば「横内環状～青森駅」、「中筒井經由昭和大仏」行きなどへ乗車(約15分)、「棟方志功記念館通り」下車、徒歩4分</li> <li>・東口より市営バス②のりば「国道經由東部営業所」へ乗車(約12分)、「堤橋」下車、徒歩10分</li> <li>・タクシーで約10分</li> </ul>
自動車	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森自動車道 青森中央インターから約15分</li> </ul>

